

令和3年度 学力向上プラン

学校名 中央区立日本橋小学校

学校の教育目標

- 児童一人一人が個性や能力を發揮し、学校や地域社会の一員として
- ・よく考える子～創意工夫をこらし、主体的に学び続ける子供
 - ・礼儀正しい子～きまりを守り、礼儀正しく思いやりのある子供
 - ・やりぬく子～勤労と責任を重んじ、何事にもねばり強く努力する子供
 - ・健康な子～明るく、心身ともに健康な子供 の育成に向けた教育を推進する

教育目標を達成するために学校として重点的に育成を目指す資質・能力（確かな学力向上にかかわる内容）

- 目標－創意工夫をこらし、主体的に学び続ける力の育成
- ・基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得
 - ・問題解決的な学習や体験的学習を通して、児童の興味・関心の向上
 - ・「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の一体的な育成

令和2年度及び令和3年度「学習力サポートテスト」や令和2年度学力向上プランの検証結果等の分析や、日常の学習の様子等から見られる課題及び要因

	児童の学力の課題	主な要因
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・説明文の要旨や物語文の人物の心情を読み取る力が、都の平均を0.3ポイント下回っている。 ・漢字の習得率の個人差が大きい。 ・文を書く力に課題がある。 ・支援を要する児童に対しての指導の工夫に課題がある。 ・学習力サポートテスト(R3 4月実施)では、全学年の「主体的に学習に取り組む態度」が、区の平均を1～6ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章をじっくりと注意深く読み取ることができていない。 ・漢字を練習し、活用する力の積み重ねが不十分である。習った後の定着ができていなかったり、語彙が足りなかったりする。 ・必要感をもって文章を書く経験が少ない。文章を書くことに慣れていない。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象についての理解度の低さや考察に課題がある。 ・自分で課題をもち、その課題達成に向けて主体的に取り組む児童が少ない。 ・学習力サポートテスト(R3 4月実施)では、全学年の「思考・判断・表現」が、区の平均を3～5ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会に見られる問題に関心をもって考えている児童が少ない。 ・実体験と結び付けて考える経験が少ないので、課題意識が低い。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・問題の意図を読み取り、数学的に考える力が都の平均を0.5ポイント下回っている。(東京ベーシック・ドリル等からの分析) ・支援を要する児童に対しての指導の工夫に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題を論理的に考え、その考えを説明する力が十分に育っていない。 ・個に応じた指導に課題がある。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・他の観点に比べ、「観察・実験の技能」の定着が不十分である。特に実験器具の扱い方に関する知識が低く、課題である。 ・実験・観察結果から、筋道を立てて論理的に考える力がまだ育っていない。 ・自然事象への関心が全体的に低い。 ・学習力サポートテスト(R3 4月実施)では、4・6年の「知識・技能」が、区の平均を1～3ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・経験や既習事項から予想を立てたり、結果を論理的に考えたりする機会が少ない。 ・学校の授業以外で、実験や観察をする場がほとんどない。 ・自然の事象に触れる機会が少なく、関心が低い。
英語	<ul style="list-style-type: none"> ・英語を書く力に個人差が大きい。(高学年) ・学習に対する興味・関心の差が大きい。 ・英単語はよく覚えているが、それを英文にすることに課題がある。 ・学習力サポートテスト(R3 4月実施)では、6年の「知識・技能」が、区の平均を1ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本となるローマ字をしっかりと覚えていない児童がいて、書くことに抵抗感が見られる。 ・日常生活で英語にふれる機会が少ない。 ・英文法まで理解している児童が少ない。
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果が、「投力」、「握力」ともに都の平均を0.8ポイント下回っている。 ・運動技能に個人差が大きく、疲れやすい児童や体の使い方がぎこちない児童がいる。 ・全国体力・運動能力、運動習慣等調査(R3 6月実施)では、「ソフトボール投げ」「上体起こし」が低い傾向にあった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外で体を動かして遊ぶ経験と時間が少ない。日常的にボールを投げる経験が少ない児童が多い。 ・人数を制限した活動が多く一人一人が体を動かす機会が減った。 ・日常的に体を動かす時間が不足している。

学力向上に向けた視点	年度末までの目標及び指標
①学力基盤	<ul style="list-style-type: none"> ・90%以上の児童が基本的な学習規律（次の授業の準備をする、時刻を守る、姿勢をよくする、話を聞くなど）を守ることができるようにする。 ・集団で学習することを不安に思う児童や少人数の学習で気持ちを落ち着かせる必要のある児童は「校内寺子屋」で学習するシステムを作る。「校内寺子屋」は、学習指導補助員と月一回の当番制で教員が管理し、各クラス担任から渡された学習課題（ICT教材も含む）を静かな環境で行う。 ・基礎基本の学習を丁寧に行い、学習力サポートテストの「知識・技能」を3%向上させる。
②授業改善	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を見通したカリキュラム・マネジメントを年度当初に行う。 ・一日のタブレット端末、電子黒板等のICT機器活用率を90%以上にし、児童の学習意欲を引き出し思考力・判断力・表現力等を高める工夫をする。家庭学習においても活用を促し、基礎学力の定着を図る。 ・プログラミング教育を発達段階に応じて生かしていく工夫をする。 ・国語の学習以外でも文章で表現する機会を増やし、児童が自ら意欲的に文章を書くための資質を高める。 ・探求的な学習や「思考・判断・表現」に重点を置いた学習指導を工夫し、学習力サポートテストの「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を3%向上させる。
③教員の指導力	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究や各学年での授業研究で、指導力の向上を図る。 ・OJT研修を通じてベテラン教員から若手教員へ授業実践例や指導法を共有できる場面を増やし、指導力の向上を図る。 ・教員自身が、積極的に特別支援教育を学ぶ研修を設定し、特別支援教育の充実を図り、学級全体の学力の保障を目指す。
④家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭と連携を取り、放課後の補習教室を計画的に行い、学習内容の習得が不十分な児童への支援を充実させるとともに、基礎的な学力の全体的な底上げを図る。 ・タブレット端末を活用しての家庭学習の充実を図り、基礎学力を定着させる。 ・学校評価（保護者アンケート）の関連する質問項目で80%以上の肯定的な評価を得られるようにする。
⑤体力向上	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の体力状況を踏まえ、基礎体力向上に留意した体力向上プランを作成する。また、運動への興味・関心を高め、体育指導補助員を活用した指導や、校庭、体育館、スカイコートなどの施設の活用を通じ、運動する楽しさを実感させる。 ・全国体力・運動能力、運動習慣等調査で区の平均より下回っている「投力」「握力」を向上させる授業を工夫し、区の平均値を上回るようにする。 ・コアディネーショントレーニングを取り入れ、いろいろな体の使い方ができるようにする。 ・学習の中で、「投げる動き」「上体を起こす動き」を積極的に取り入れる。



【目標達成のための具体的な取組内容】

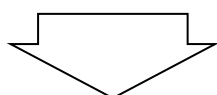
①学力基盤	
取組Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> ・話を聞く態度を育てるため、掲示物を生かしたり、算数では、単元に入る前に必ずフラッシュカードやミニプリント等を用いたりして復習時間を設ける。フラッシュカードを取り入れたりして授業を工夫していく。
取組Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> ・「東京ベーシック・ドリル」等の結果を基に、学習内容の定着を確認しながら、短縮時程（B時程）の日に放課後補習教室設定し、学力の定着を図る。 ・「校内寺子屋」で学習するシステムの行い方を工夫する。
取組Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> ・モジュール（Nスタディ）を活用し、国語の漢字や算数の計算力等の基礎的な学力の定着を図る時間をさらに増やす。 ・学級文庫や学校図書館、日本橋図書館を活用し、朝のモジュール学習で読書活動を実施し、読書習慣の形成を図る。学年の発達に応じて「ブックトーク」や「ビブリオバトル」などの活動を取り入れ、読書の魅力を異学年にも広く伝え、本を基に児童が広く交流できるようにする。

②授業改善	
取組Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> ・教材との出会いを工夫し、主体的に「問い」を追求する児童の育成を目指して、授業改善を行っていく。校内研究のテーマとして研究していく。 ・年間を通して、の視点で授業改善を継続する。
取組Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領や教科書を基に、本校で行われてきたこれまでの実践を生かしながら児童の実態に合った授業プランや指導計画を編成し、ユニバーサルデザインを授業に取り入れていく。
取組Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末、電子黒板等のICT機器を有効に活用し、児童の学習意欲を引き出し思考力・判断力・表現力を高められるよう、教員相互で授業を見合い、指導法を工夫する。家庭学習においても活用を促し、基礎学力の定着を図る。また、プログラミング教育を発達段階に応じて生かしていく工夫をする。

③教員の指導力	
取組Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的な学力の定着を目指し、問題解決型授業による「知識・技能」の活用をしながら「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」をバランス良く育成する授業を実践できるよう、各教科主任が学年の発達に応じて助言を行う時間を設ける。
取組Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> ・教材研究に努め、一日の授業の中で特に指導を工夫して行う一日一実践や、互いに授業を見合う週を設定したOJTウィークを行い、指導力の向上を図る。その研修を通じてベテラン教員から若手教員へ授業実践例や指導法を共有できる場面を増やし、指導力の向上を図る。
取組Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の学習状況や各種テスト、東京ベーシック・ドリルなどの結果を分析し、指導の改善を図る。 ・特別支援コーディネーターを中心に、積極的に特別支援教育を学ぶ研修を設定し、研修に取り組む。

④家庭との連携	
取組Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年、学級の実態に応じて継続的、計画的に課題を与え、家庭学習の習慣を身に付けられるよう、学習目標を共有し、家庭の協力を求める。
取組Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭と連携を取り、放課後の補習教室を計画的に行い、学習内容の習得が不十分な児童への支援を充実させるとともに、タブレット端末のアプリケーションを活用して基礎的な学力の全体的な底上げを図る。
取組Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> ・学校・家庭・地域が相互に連携し、命の大切さや思いやり、感動する心など、豊かな人間性を育む道徳教育を推進し、学校便りや学校HP等で、学校で取り組んだ学びを家庭と共有できるようにしていく。

⑤体力向上	
取組Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> ・運動委員会と連携し、縄跳びの技の紹介等を行うことで、取組の実施期間の周知や方法を工夫し、児童の意欲や技能、能力の更なる向上を図る。
取組Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> ・「投力」向上の取り組みとして、休み時間に使えるボールとしてスポンジの小型ボールを用意し、休み時間も授業の中でも投げる運動（キャッチボールやパス練習など）に積極的に取り組ませる。
取組Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> ・コーディネーショントレーニングについて、日常的に教員が使える指導を体育部から提案する。特に「上体を起こす動き」につながる運動を提案し、各学級で実施する。



【取組結果の検証】

学力向上に向けた視点	取組の成果	取組の課題及び解決策
①学力基盤		
②授業改善		
③教員の指導力		
④家庭との連携		
⑤体力向上		